

1 新博物館整備の視点とポイント

- ①新博物館は、本市の多様性を広く伝える場となることを目指します。
- ②新博物館は、子どもから高齢者まで幅広い世代の市民を対象とし、収集する資料を活用して、社会教育・学校教育に加え、福祉や世代間交流などにも資する、全ての人に開かれた場となることを目指します。
- ③新博物館は、歴史・文化・自然を市民共有の財産として、市民と共に守り、育て、未来に継承していく活動の拠点となることを目指します。
- ④新博物館は、地域資料館・個別資料館を相互につなげ、それぞれの地区の連携を生み出す役割を果たすことを目指します。

2 新博物館の方向性

①基本理念



「とよた」※を受けつぎ、未来の「とよた」をつくる

“WE LOVE とよた”の拠点

多様な自然・文化的特性をもち、様々な人々が集い暮らす豊田市。ここは、あなたの暮らしに気づきをもたらし、「とよた」を育てるためのみんなで作ってつくり続ける博物館です。

※「とよた」とは「とよた」とは、わたしたちのまちの歴史・文化・自然や人々の想いなどで形作られる環境・風土・記憶の総体です。このまちが未来へ発展するために必要な底力です。

②新博物館の使命

使命1 「とよた」を知り、守り、未来へ伝える

使命2 「とよた」に触れ、自由な学びを育む

使命3 多様な人々や文化に出会い、「とよた」の魅力や新たな価値を発見する

③必要な機能

機能① [博物館基盤機能]
「とよた」を探る・守る・未来へ伝える

機能② [学習支援・創造機能]
「とよた」を学ぶ・未来を生み出す

機能③ [出会い・交流機能、ネットワーク機能]
「とよた」に出会う・つながる

④活動方針

みんなで「とよた」をたのしみ、共に未来をつくる

①「とよた」をたのしむ
~「とよた」とその多様性を探る活動を展開するために~

②「とよた」をつくる
~豊田市の未来をひらく活力を生み出すために~

3 新博物館で展開する事業活動

(1) みんなでつくる新博物館の取組

①暮らしの中にある発見から「とよた」がさらに成長していく仕組み

- ・市民や来訪者など誰もが気軽に利用でき、楽しく「とよた」に触れながら、くつろぐことができる場として、(仮称) えんにち空間を創出する。
- ・多様な主体同士が関わり合いながら「とよた」の魅力を探求・発信する。
- ・新博物館での活動が市域全体へ拡大し、まち全体の活性化の原動力となることを目指す。

※1 個人の生涯にわたる歴史。生活史。

※2 記録を保存・活用し、未来に伝える仕組み。

②(仮称) えんにち空間における特徴的なプロジェクト

■多様な主体が実施する展示や体験プログラム「とよた発見屋台」

- ・「とよた」の種を紹介する市民による展示。
- ・可動式展示台による手軽な展示。
- ・体験やワークショップ、実演プログラムなど。

(例)
大八車を活用した「とよた発見屋台」



■未来への記憶

- ・市民の投稿や古文書・古記録などの資料からライフヒストリー※1を収集し、「とよた」を語る“未来への記憶”として公開。
- ・収集した“未来への記憶”は、誰でも自由に知りたい情報を検索できるよう保存するほか、常設展示などにおいて実物資料と共に紹介。

■明日のとよた

- ・市内の民間企業・商工団体・生産者による最新技術や製品・生産物を展示し、「とよた」の未来を生み出すきっかけとする。
- ・新たな開発や起業に向けた発想の基盤となるよう、展示された資料やこれまでに豊田市で開発・制作されたものづくりに関わる資料をアーカイブ※2化し公開。

(2) みんなでつくる新博物館のテーマ

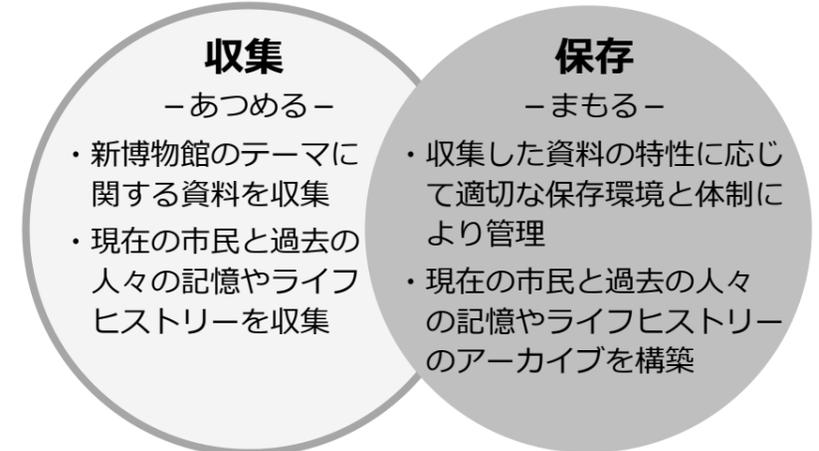
自然環境、社会環境などを踏まえ、新博物館が活動を展開する対象として、**みんなでつくる新博物館のテーマ**を設定し、事業活動を展開する。

新博物館のテーマ

- 1 多様な自然との共生や自然資源を活かした暮らし
- 2 まち・ものづくり・企業
- 3 このまちに生きた・生きる多様な人々
- 4 「とよた」のあゆみと未来

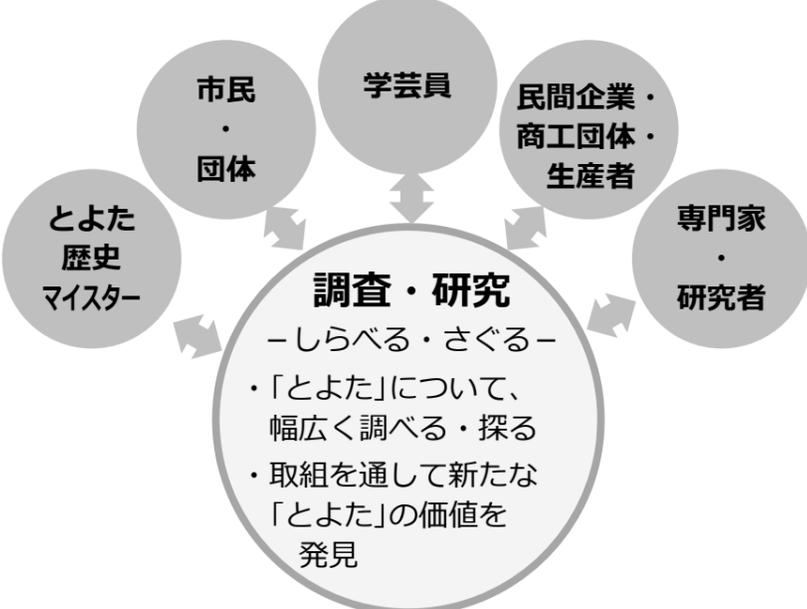
4 事業活動計画

(1) 収集・保存事業 -あつめる・まもる-



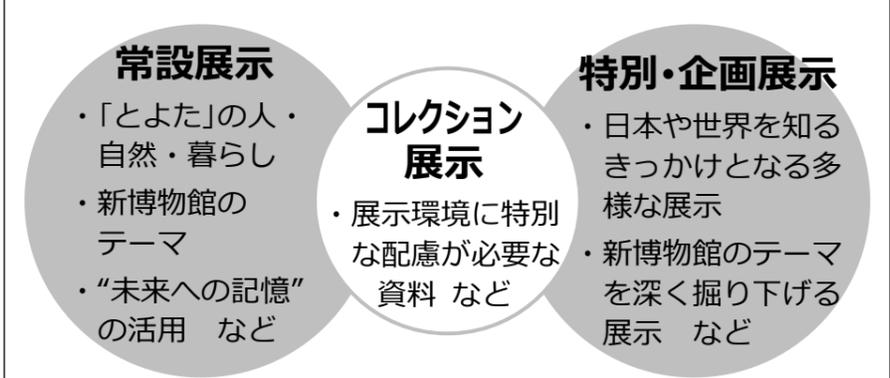
- ・収集方針を定め、体系的かつ継続的に資料を収集。
- ・豊田市美術館、豊田市自然観察の森などとの役割分担・機能連携により収集・保存。
- ・豊田市郷土資料館、地域・個別資料館などの資料の一元的管理。
- ・資料特性に応じた適切な保存環境と保存管理体制、資料への生物被害を防ぐための仕組み（博物館IPM）を導入。
- ・“未来への記憶”の情報をデジタル化し、検索できる形で保存。

(2) 調査・研究事業 -しらべる・さぐる-



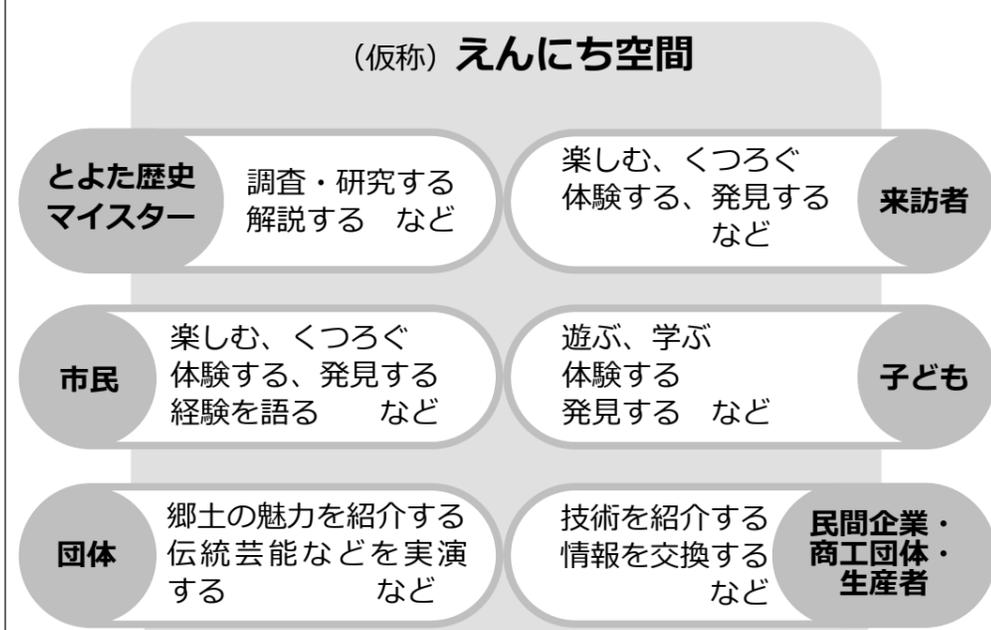
- ・学芸員、とよた歴史マイスター、市民・団体、民間企業・商工団体・生産者、専門家・研究者などが連携し、調査・研究を行い、「とよた」の魅力や価値を明らかにする。

(3) 展示・公開事業 -つたえる-



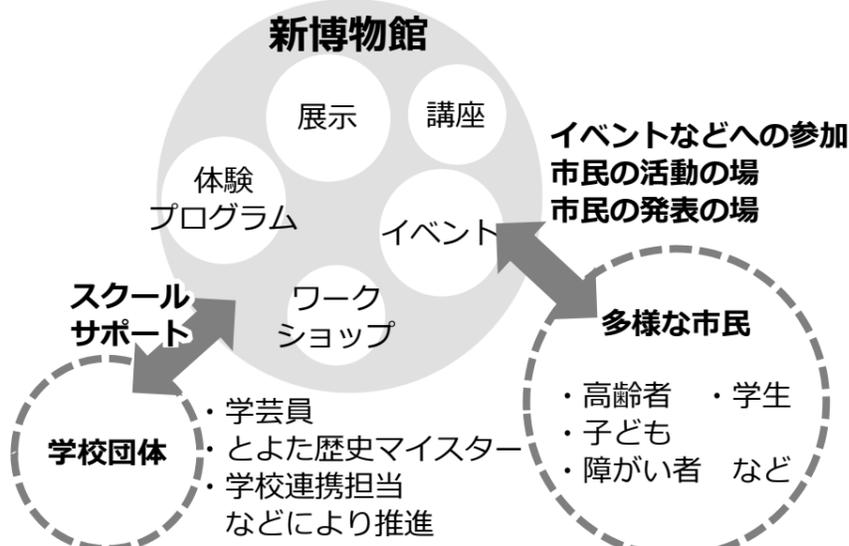
- ・調査・研究の成果を踏まえ、新博物館のテーマを軸に展示。
- ・文化庁による国宝・重要文化財の公開承認施設の基準に適合した施設とし、充実した展示を実現。
- ・新博物館のテーマを深く掘り下げたり、世界の中で「とよた」について考えられる特別・企画展示を開催。
- ・とよた歴史マイスターなど市民による展示解説、映像や音声などの先端技術の活用。

(4) 出会い・交流事業 -「とよた」にであう-



- ・市民や来訪者が交流しながら「とよた」に触れ、楽しい時間を過ごせるプログラムを展開。
- ・多様な主体による様々なプログラムを入れ替えながら展開することで、新たな発見とわくわく感を創出。

(5) 学習・創造事業 -まなぶ・うみだす-



- ・地域に根ざした資料を通じた博物館ならではの学習機会に加え、体験や対話を通じたプログラムなどを提供。
- ・生涯にわたる学びの場として、幅広い人々に対して、それぞれの興味や関心に応じたプログラムを展開。
- ・学校団体の利用に向けたスクールサポートプログラムの拡充。
- ・とよた歴史マイスターなど市民による活動の拡大。
- ・市民や団体と新博物館の共働による学びを推進。

(6) ネットワーク事業 -つながる-



- ・連携展示：市域の中核拠点として、地域・個別資料館やその他展示施設、文化財などを紹介する展示を行い、「とよた」の魅力を発信。
- ・移動展示：収蔵資料や研究成果を活かした移動展示を市内各地域で開催。新博物館のテーマにもとづく資料や情報を盛り込んだ展示キットを開発し、市内各地へ貸出。
- ・回遊促進：市内各地の自然や文化財の情報や、「とよた」を楽しむ回遊ルートを提供。

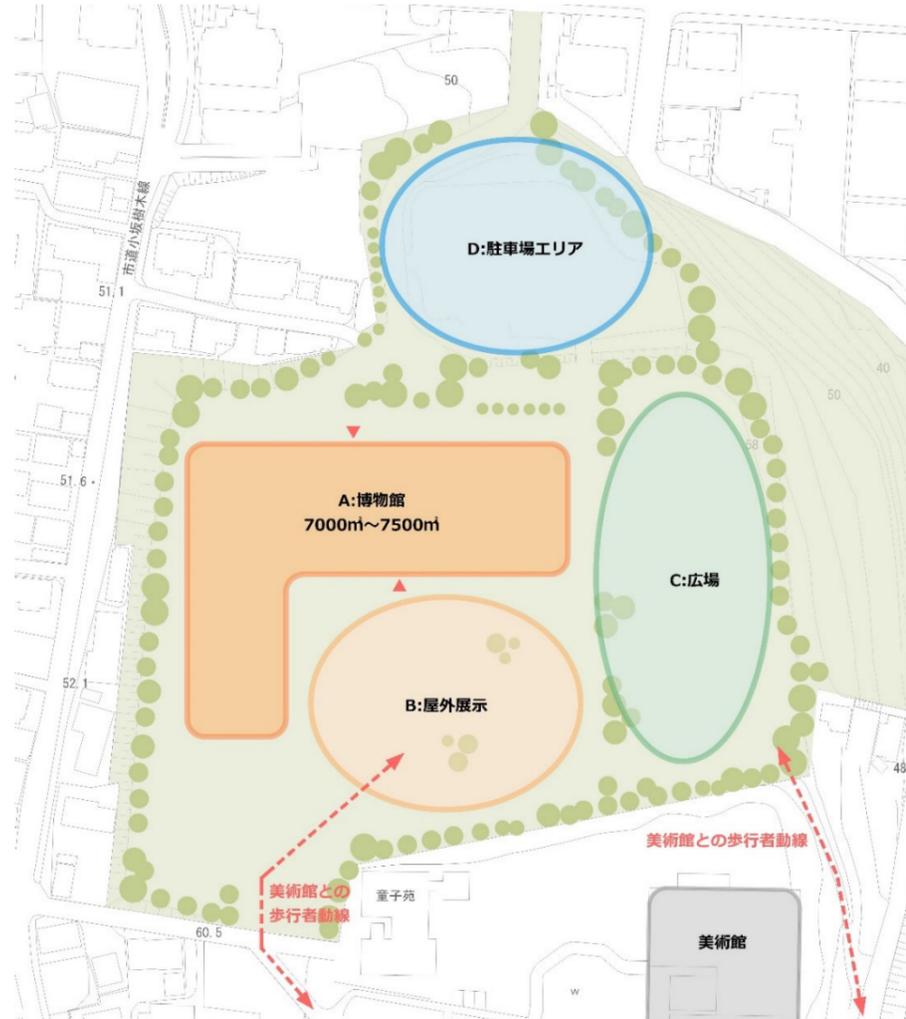
5 施設整備計画

(1) 基本方針

- ①みんなが集う（仮称）えんにち空間から交流と共感が生まれる、開かれた博物館
- ②体験活動が活発な博物館
- ③国宝・重要文化財を公開する施設の基準に適した博物館
- ④災害にも強い、安全な博物館
- ⑤環境や景観に配慮した博物館
- ⑥多様な人々に配慮した博物館

(2) 敷地条件・配置計画

旧豊田東高等学校跡地（35,948 m²）を活用し、博物館（A）、屋外展示（B）、広場（C）、駐車場エリア（D）を整備する。配置については基本設計で決定。



(3) 施設の全体構成

A：出会い・交流部門	新博物館を訪れるきっかけとなる、「とよた」の魅力とにぎわいのある（仮称）えんにち空間
B：展示・公開部門	自然と共に暮らし、歴史・文化を育んできたあゆみを通して、「とよた」をわかりやすく紹介する展示空間
C：学習・創造部門	学校団体や、市民、来訪者が新博物館の活動に参画したり、新博物館を自らの活動に利用する場
D：収集・保存部門	「とよた」を探り、継承するための資料を収集・保存する諸室
E：調査・研究部門	新博物館のテーマを軸にした調査・研究を行う諸室
F：管理運営部門ほか	新博物館の運営に関わる職員・学芸員などの事務・作業の空間と、電気や空調機器などの機械室
全体規模（延床面積）	7,000~7,500 m²

(4) 施設整備イメージ



※本図はイメージ図であり、詳細な内容は今後の設計で位置づけます。

6 展示計画

- (1) 基本方針
- ①新博物館のテーマを軸に展開する展示
 - ②多彩な「とよた」の魅力を、市民と共に創造する展示
 - ③市民の記憶や記録など「人」と「暮らし」を伝える展示
 - ④収蔵資料の積極活用による体験を重視した展示
 - ⑤いつ来ても新しさを感じる展示

(2) 展示の基本構成

- ①常設展示（1.とよたモノ語り、2.とよたの人・自然・暮らし、3.とよた^{れき}暦）

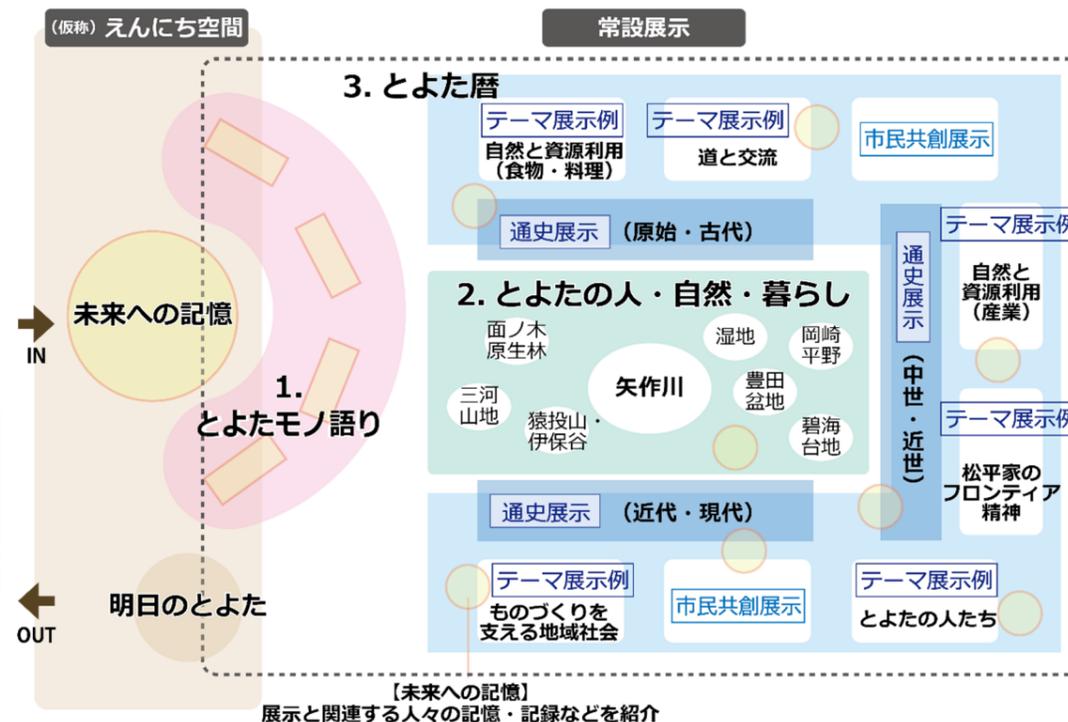
- ・豊田市の歴史・文化・自然、人々の想いなどを総合的に扱う。
- ・市民の記憶や先人の記憶を展示全体に活用するなど、「人」の姿や「暮らし」を伝える展示。

②特別・企画展示

- ・「とよた」に関する多様なテーマについて、収蔵資料及び借用資料を活用し開催。
- ・知名度や集客性が高く、世界を知る機会となるような大規模な巡回展も積極的に誘致。
- ・大規模な特別展示を開催する際には、コレクション展示室の一部（全部）も使用。

③コレクション展示

- ・保存環境に配慮が必要な資料などのほか、田中順三氏寄贈資料^{※3}などのコレクション資料を展示。



【常設展示】 1.とよたモノ語り

①モノ（＝資料）と人の記憶で構成する導入展示



(例)壁面全体に展示される
廃校となった学校の品物

(例)ある家族のある年代の家電

- ②“未来への記憶”をモノと併せて展示
- ③モノを介したコミュニケーションの創出
- ④みんなが楽しめるユニバーサルな展示

【常設展示】 2.とよたの人・自然・暮らし

①原始・古代から現代までの自然環境と、人々の関わりを総覧する展示

- ・原始・古代から現代まで人々の生業や生きる知恵を自然特性ごとに表現。多数の時代やシーンを一体的に展示。
- ・ジオラマの周囲に、特色ある地域資料を象徴的に展示したり、ジオラマ本体にも引き出し式の展示ケースやのぞき窓など興味や関心を高める仕掛け。



②「とよた」のストーリーを発見できる仕掛け

- ・ジオラマの登場人物の気持ちや情景を利用者に考えてもらうなど、利用者自身の参加によって新しい見方やストーリーを発見できる。
- ・吹き出し型のグラフィックやAR（拡張現実）などで当時の会話を表現。

【常設展示】 3.とよた^{れき}暦

①豊田市ならではの歴史軸（通史）による展示

- ・豊田市ならではの特徴をとらえた通史展示。
- ・時代ごとの社会の概略と、その展示内容に関連する史跡・建造物などの文化財を紹介。新博物館から文化財が所在する各地域への橋渡しの役割を果たす。



- ②「とよた」に関連するテーマ展示や、市民と共につくる市民共創展示を展開
- ③人が見える、人が語る展示

7 管理運営計画

- ・継続性や安定性を重視した運営体制とするため、直営を軸に、効率的な維持管理を実現する体制の構築を目指す。
- ・新博物館全体の方向性を定め、その事業を統括し、博物館に関する専門的知識や経営的視点などを有する館長のもと、各分野の専門性を有した学芸員、学校との連携担当、市民などとの連携活動をコーディネートする担当、“未来への記憶”を管理運営する担当などの配置を検討。

※3 縄文土器や土偶など2,326点。

8 今後の事業展開に向けて

(1) スケジュール

- ・2019年度以降、基本設計、実施設計を行う。
- ・敷地造成工事、建築工事、展示工事を順次推進。

(2) 開館に向けた取組

- ・市民などに向け、新博物館の整備をアピールする取組を推進。
- ・“未来への記憶”の収集。

- ・（仮称）えんにち空間の担い手となるとよた歴史マイスターなどとの共働による展示づくりを試行。
- ・民間企業や教育機関などとの連携。
- ・近隣住民の理解を得ながら、施設整備を検討・調整。また、安全とバリアフリーに配慮した進入路、駐車場の整備、歩行者動線を確保。
- ・施設名称・愛称を検討・決定。
- ・効果的・効率的な事業運営を検討。
- ・美術館・文化会館と一体となった豊田市文化ゾーンにおける魅力創出の検討。